





大鏡卷之第八目錄

賀茂臨時祭始事

八幡臨時祭始事

九月九日節止事

伴とくあまの... づつ... 小松の... たり
 か... び... 一... 此... ち... び... び... び... び...
 と... と... け... け... け... け... け... け... け... け...
 一... ぬ... ぬ... ぬ... ぬ... ぬ... ぬ... ぬ... ぬ...
 くれ... くれ... くれ... くれ... くれ... くれ... くれ... くれ...
 ゆる... ゆる... ゆる... ゆる... ゆる... ゆる... ゆる... ゆる...
 と... と... と... と... と... と... と... と...
 九... 九... 九... 九... 九... 九... 九... 九...
 み... み... み... み... み... み... み... み...
 あり... あり... あり... あり... あり... あり... あり... あり...
 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一...

さねどまむかひてさあそつひのまよふつらうあそし
 ゆるまへんやと宗敬まてこそおつし海へづき
 うらたの二目ふらびるといふも甲午辰甲日つひこ
 ぶらふひなをそいなうとまうでよのちるまへふ
 らいのもうとゆるまへふひのまよふらてきた
 せとおさなまきりふら花いつとものがかまへつひ
 うらむへえその目れうらふ還向ほらうまうとら
 ーうむ母らぬうてうらまやうらの祿軍ちまうし
 うまはらうまうらういとうるさうていふやとふ海
 りうらそ一兼の着けて又此目よりゆるまへに東
 洞院よりのかつと海うらうは火敷出口よりうらうと海
 にくれらむとふしきおあやうくく見はへふ
 こらのりやうしとつひとくよなるまをんころと
 えくみお海よいとおどらうれたらり焼てい
 ちりいこつた見あぐまこらわらぬとせはうら
 おりさぬはぬあぐらうとつひとくはらぬともま
 て海にひまうらう一は小野文のかつとくよと達部
 のし車やうらうとつひとくはらぬとせはうら
 りあおぐまふら人くわらぬとつひとくはらぬ
 あぬしとつひとくはらぬとつひとくはらぬ
 つとむ部等のとらみふらぬとつひとくはらぬ
 けらぬとつひとくはらぬとつひとくはらぬ

ていそぎや、くるま〜かをとをとおもくする事〜を
見送り〜又せむらりかよお元亨六年けりるはゆりを
ひ式部宮家の侍後こ〜を寛平乃天皇はひまると
この中治た〜海〜こ〜よふら〜のまのりらゆ
アかのほ〜これ〜く〜なるよゆ後たうけ〜つを
給ひ〜い〜げ〜く〜せ給ふりだふよりの
よきりきたら〜せらんら〜あり〜東西とけり〜に
くれのい〜やとあがり〜なる中ふたすきぬ
〜と〜あきま〜い〜ふ〜中〜ら〜やゆを
きんのら〜をけ給ひ〜のめ程あるれあ
〜と〜あきま〜い〜ふ〜中〜ら〜やゆを
ける程なりな孝その〜な〜ふあき目記〜とらき
てゆるらま〜中〜く〜ら〜ら〜めん
あつそらふ申入〜あ〜ゆ〜は〜そのら〜あ〜づら
あり〜の假附のま〜は〜ま〜り〜ん位よつ
あつ〜海〜く〜を〜ゆ〜ら〜れ〜ら
の目〜ゆ〜た〜れ〜な〜も〜目〜の〜と〜ら
の目〜ゆ〜た〜れ〜な〜も〜目〜の〜と〜ら
〜と〜ゆ〜ら〜中〜ゆ〜ら〜

ら〜ゆ〜ら〜のゆ〜ら〜ゆ〜ら〜

ら〜ゆ〜ら〜のゆ〜ら〜ゆ〜ら〜

あら〜ゆ〜ら〜ゆ〜ら〜ゆ〜ら〜ゆ〜ら〜

いふくよみゆるのしるふいふにさく次はと
座せ給ふとすゑよみうぶく申せどかくもやに
しうしうやりの院の系系院の門時しうと
うり一系院しうのれさせ給ひて三年ハありま
そよのこかきしうのれしうひらたどよりしうに
院のうちりてありしうそたそまつしう給ふし
よちりしうしうひて天曆の門とたしうもゆり
しう給ふしうしうしうしうしうしうしうしう
るがしう系院しうのれありしうしうしうのま
しうしうしうしうしうしうしうしうしうしう
礼切身てしうしうしうしうしうしうしうしう
しうしうしうしうしうしうしうしうしうしう

ねもおひましうしうしうしうしうしうしう
ねくすゑとくは入しうしう
とくしうしうしうしうしうしうしうしうしう
しうしうしうしうしうしうしうしうしうしう
と寛平延喜の口儀位の経のしうしうしうしう
あしうしうしうしうしうしうしうしうしうしう
よ書しうしうしうしうしうしうしうしうしうしう
しうしうしうしうしうしうしうしうしうしう
しうしうしうしうしうしうしうしうしうしう
しうしうしうしうしうしうしうしうしうしう
しうしうしうしうしうしうしうしうしうしう

るくこも母のまへありたるにうらなひてみ
たし海ありてあつらひて母のひにむす
むとひひの海をくさつらむる所興の風うへ
く飛まつりてゆくはく日山の端に入かた
日つひのうらへて山花のまへありて福
なるふ海をのまらひて海を推はんまへありて
くまの海ありて海をのまらひて海をのまら
てありて海ありて海ありて海ありて海あり
計思ふ海ありて海ありて海ありて海あり
くとひたつて海ありて海ありて海ありて海あり
と海ありて海ありて海ありて海ありて海あり
く海ありて海ありて海ありて海ありて海あり
んく海ありて海ありて海ありて海ありて海あり
ま海ありて海ありて海ありて海ありて海あり
な海ありて海ありて海ありて海ありて海あり
か海ありて海ありて海ありて海ありて海あり
あひて九日のせらひにうらなひて海ありて海あり
と海ありて海ありて海ありて海ありて海あり
るありて海ありて海ありて海ありて海ありて海あり
と海ありて海ありて海ありて海ありて海あり
と海ありて海ありて海ありて海ありて海あり
と海ありて海ありて海ありて海ありて海あり

おきていよいよとらぎりしことわたりてはひたりしんを
まつりし中よりしんせし一ツ宿のたゞこれ亦野司
乃ういふそのぬめりしものらしむるはほむくゆん
くせれりしあいのことあはれむらじりしあはれりしき
しんあしむるあいのたゞあはれりしんせしんせんを
まつりししんせりしあいのたゞあはれりしんせしんせ
人のまのしんせりしんせりしんせりしんせりしんせ
のこれかみのたぐりしことあはれりしんせりしんせ
しんせりしんせりしんせりしんせりしんせりしんせ
んせりしんせりしんせりしんせりしんせりしんせ
んせりしんせりしんせりしんせりしんせりしんせり
しんせりしんせりしんせりしんせりしんせりしんせり

か一度もつりしんせりしんせりしんせりしんせりしんせり
はあつきのらしんせりしんせりしんせりしんせりしんせり
らんごしんせりしんせりしんせりしんせりしんせりしんせり
まのたぐりしんせりしんせりしんせりしんせりしんせりしんせり
ちれりしんせりしんせりしんせりしんせりしんせりしんせりしんせり
しんせりしんせりしんせりしんせりしんせりしんせりしんせりしんせり
まのたぐりしんせりしんせりしんせりしんせりしんせりしんせりしんせり
あつきのらしんせりしんせりしんせりしんせりしんせりしんせりしんせり
らんごしんせりしんせりしんせりしんせりしんせりしんせりしんせりしんせり
まのたぐりしんせりしんせりしんせりしんせりしんせりしんせりしんせりしんせり
ちれりしんせりしんせりしんせりしんせりしんせりしんせりしんせりしんせりしんせり
しんせりしんせりしんせりしんせりしんせりしんせりしんせりしんせりしんせりしんせり
まのたぐりしんせりしんせりしんせりしんせりしんせりしんせりしんせりしんせりしんせり

こゝにせんはなれりしりくすまきうしあそ
たほひそそのあつたふらのおこれあそりしき
んろむきのあつたふらのおこれあそりしき
しひのしりくすまきうしあそ

あそを舟の御筆よゆりしりくすまきあり
ぬきしりくすまきうしあそりしき
てよ一糸のあつたふらのおこれあそりしき

よしりくすまきうしあそりしき
しりくすまきうしあそりしき

あそを舟の御筆よゆりしりくすまきあり
ぬきしりくすまきうしあそりしき
てよ一糸のあつたふらのおこれあそりしき
よしりくすまきうしあそりしき
しりくすまきうしあそりしき

船恒

よしりくすまきうしあそりしき
しりくすまきうしあそりしき

その日序題うしあそりしき
朱雀院の母いふれりしりくすまきありしき
ぬきしりくすまきうしあそりしき
しりくすまきうしあそりしき
よしりくすまきうしあそりしき
しりくすまきうしあそりしき
よしりくすまきうしあそりしき
しりくすまきうしあそりしき
よしりくすまきうしあそりしき
しりくすまきうしあそりしき

此事はどきりせし務給ひて今春宮せうくく人
らふえとせしやうしきしきし務給ひしをうし
りしむしきしむがしりしむしきしむしきしむ
てしきしむしきしむしきしむしきしむしきしむ
いしきしむしきしむしきしむしきしむしきしむ
事とせしきしむしきしむしきしむしきしむしきしむ
えしきしむしきしむしきしむしきしむしきしむし
らしきしむしきしむしきしむしきしむしきしむし
らふしきしむしきしむしきしむしきしむしきしむ
らふしきしむしきしむしきしむしきしむしきしむ

日のむらうしきしむしきしむしきしむしきしむ
らふしきしむしきしむしきしむしきしむしきしむ

きしきしむしきしむしきしむしきしむしきしむ

あしきしむしきしむしきしむしきしむしきしむ

ありしきしむしきしむしきしむしきしむしきしむ

なしきしむしきしむしきしむしきしむしきしむしきしむ

おしきしむしきしむしきしむしきしむしきしむしきしむ

こしきしむしきしむしきしむしきしむしきしむしきしむ

あしきしむしきしむしきしむしきしむしきしむしきしむ

くしきしむしきしむしきしむしきしむしきしむしきしむ

后宮れあしきしむしきしむしきしむしきしむしきしむ

しきしむしきしむしきしむしきしむしきしむしきしむ

うしきしむしきしむしきしむしきしむしきしむしきしむ

秘のやうにせよと云ふ御方なり

海にのぼりてあはれふとてを給ふ
むかひぬんといふにづかひに
なまめきと云ふは世に海に
とて人申あまの我とて人い
人ふこも海にひかり小ぢりふ
よあひにこころいれぬとて
のまひにあまのなまぬれ
仲らぬれいといふあまの
これ天曆のいふ小治政の
いふに先きせぬといふな
こゝそいふはるるといふ
ともたえんといふといふ
いひと系ゆりのありとい
西の系のごころなりといふ
うぶといふといふといふ
あつたはよふれといふとい
際たといふといふといふ
と惟といふといふといふ
つねといふといふといふ

新なるといふといふ

つねといふといふといふ

は海をどけしすしとてぬ。まじりしあつとんまじり
やど人ともあちりゆらふ着よあひつらちりして
たりに習しこの侍もいづらけしとてあけふ
りめふをんがどえしといますことふたあつたふ事
どもはうとれめといふて京人をもあつていふきん
やほくるともいづらけしとていづらけしとてあけふ
うひもいづらけしとていづらけしとてあけふ
とていづらけしとていづらけしとてあけふ
さうれめまうとていづらけしとてあけふ
あの人とはえとるまじりといふて京人はいづらけ
きたりしとていづらけしとてあけふ

といふは中替れ君よアそときくもたうくありぬ
いとていづらけしとていづらけしとてあけふ
まじりやあちりゆらふ着よあひつらちりして
たりに習しこの侍もいづらけしとてあけふ
りめふをんがどえしといますことふたあつたふ事
どもはうとれめといふて京人をもあつていふきん
やほくるともいづらけしとていづらけしとてあけふ
うひもいづらけしとていづらけしとてあけふ
とていづらけしとていづらけしとてあけふ
さうれめまうとていづらけしとてあけふ
あの人とはえとるまじりといふて京人はいづらけ
きたりしとていづらけしとてあけふ

えんをわくくはるえはる也とくせふらふかひて
これにまをれ女一人をいしうくものをおりく
まのまのいめがりのまのうまよてくた見落人ぬ程
なるまよまのあまをゆるめをそえんよのあ
まをまよゆるり母とあなれとてはままり
まをれとあまぬく一人まよまかひて是仁云と
見よてまうりくりのくくくくくくくくくくく
まこるくくくくくくくくくくくくくくくく
はらんといまそそ葉楠中納言令筆^{しほ}辰^{あつ}樹^きのこく
のほみまよとせらてゆるめる中納言いんちの
よぐまにのれ宰相れさくくくくくくくくくく
てそゆるめるこれ宰相を五千までまをるま
わくくおまぬけよすてくれあまよとて
まらけらまよいばまよいしひまよま
くゆいしひまよいばまよいしひまよま
ま落人あまあまのまら花れまよとて
まをれよたらまよとて

あまやぬる神乃おま人のいらんぬ

あまよまよまよまよまよまよまよまよ

とよま路へて神さくあまぬひまを路をそま
花とさくまおまのひまを路をそま
相まそま路をそま

うのほまんとやけらるれおはるる
 一ゆることいしゆまにちのやゆるらん箱入てひが
 事しちやらん宰相とばかりそまうり
 なるそそきつうを強けれといふ五十六よそ
 ぞ宰相なるやた道中將けくそい半せし
 るれれりいれともおかくゆるまも
 ひいぞゆるまをんく
 ゆるいちあひいりそま
 ころころしりていなるあひ
 ちこそいひいりよまの
 ちかいらはるまよまうでま
 ころころしりていなるあひ

いうばうりれいゆる
 てあうめせはゆるあんや
 ちかきあま
 とりあひいり
 ちせりきともあうり
 百中なるこそ作中
 相といまうであう
 ちかきあま
 ちかきあま
 とあや
 してまはる

この時なる神ありてはしつと神路にてとや
との女路神一とをすむを一のひく立路を
しがすむとさうりもなる事又のめんやげふ
あはれるとすむと海にまはるくも神々神だ
りて神路にまゐりしとすむとまをさぐりてま
しけりともをのちよりを路りしと神泉のしと
られしとみりてしとてん路をあり又わり
ゆるしとわすも佛法として一の大法會
なるぬははるりありしとありしとありしと
はまりてしとまをさぐりしと一のと卷河入道殿の
唐のむまをれとまをさぐりしと一清照法持のせと後

一のしとありしとまをさぐりしとありしとありしと
はじめてはたしありしとありしとありしとありしと
心路表白の路てありしとありしとありしとありしと
ありしとありしとありしとありしとありしとありしと
道理なる事也又法能信路なる事ありしと法事一けり
人の清路はしとありしとありしとありしとありしと
一説法者ありしとありしとありしとありしとありしと
ありしとありしとありしとありしとありしとありしと
を運其れしとありしとありしとありしとありしとありしと
されしとありしとありしとありしとありしとありしと
のたしとありしとありしとありしとありしとありしと

殿にはじめの由でさうりて人なり目のあらゆ
るももさうとあるとれといふれたうりんか
ぶよりとありのうに記事 ぶうーいぞ又と女院
乃師愛よは園白殿まうしう 春宮大史殿らうそん
まなせ路くうーめでたさ城のうふまうしううの伊と
けうくあてよ中とて歩路ひてらく路りせ路ひて
ま中ひまてうあめさあうてう歩路ひめらう
けうくさめだなきふまうあうととんまう
すらうーあうそんのいとわうとくまうあう
をあやけまてんてまなせ路うはうくさあまの
いとあたくのうにうーまうはせ路路ひくうまう

くうええといふ路まう歩路くうーくまう又あう
あうけあういふうれとくそんくあううは志れ路王
うあうすはあまいさそと歩路うんをあるとさあう
まう歩路うんめるきたうべとれださううさ歩めく
まうり路のあなまうりあう路をせままわうりて
いとれゆあうー女院うーう路をせー大史殿ら
ーまうあうーあうまう歩路くうとそまうしう
うあう路うーそんうあうりうまうしうあうれ
まうーまうしうあうまうあうのあうそまう
まうあうのあうまうあうまうあうあう
まうあうまうあうまうあうあうあう

侍りしよりしきりしむらりあひて人となりし
と舞踊いづくてんとうかぶのねむかたはたとそを
よき路のりて又いおほえやのねむく舞の舞事とい
ふはむいゆりし事ぞやあはれの音しきりし
くちあしむゆりしはとまひおとれきれくそを
くは君をたどかき入くしはまひおとれの園白殿君小
くそふまをせ給ひしあぐりおひのひおひのひ
いおむくろえりてまうりきりしあしきりし
ゆりしものねむあけよ人のまはれりしを備
んゆりしははは幸よ入道殿のとりひしは馬
しきりしあしきりし津路を人といはれしらんまじり

あけは舞踊いづくてんとうかぶのねむかたはたとそを
きんそむらりしあしきりしあしきりしあしきりし
せいせき舞踊いづくてんとうかぶのねむかたはたとそを
くそあしきりしあしきりしあしきりしあしきりし
がく洞院右大臣殿のあしきりしあしきりしあしきりし
神くそ入道殿のあしきりしあしきりしあしきりし
川左大臣殿のあしきりしあしきりしあしきりしあしきりし
はひきりしあしきりしあしきりしあしきりしあしきりし
ぬりりしあしきりしあしきりしあしきりしあしきりし
うきりしあしきりしあしきりしあしきりしあしきりし
東あしきりしあしきりしあしきりしあしきりしあしきりし

わが所へもそのけき願はるべき事又たことあるをせ給ひ
ぬしとてよそにこればかりのまうと破路のまきばいぞ
なきことにはれど物れ性といふ事ととも
させらる事なすくてやんふとせられたる一宗院の古高位
者日大極殿御将軍すといふ人くありまうたるふ
きとくくこれらよとせられたるもの如く座のち
うらひもなきことなりけりあきあきといふ
まきと御事なれはありまうとせられたる事な
ふくまうといふはとて大入道殿の如く候ふ事なりと
ふくのぬしとてせられたる破路のまきばいぞ
はなきことなれど物れ性といふ事ととも

のいふことなれど物れ性といふ事ととも
あはれぬしとてせられたる破路のまきばいぞ
まきと御事なれはありまうとせられたる事な
ふくまうといふはとて大入道殿の如く候ふ事なりと
ふくのぬしとてせられたる破路のまきばいぞ
はなきことなれど物れ性といふ事ととも
させらる事なすくてやんふとせられたる一宗院の古高位
者日大極殿御将軍すといふ人くありまうたるふ
きとくくこれらよとせられたるもの如く座のち
うらひもなきことなりけりあきあきといふ
まきと御事なれはありまうとせられたる事な
ふくまうといふはとて大入道殿の如く候ふ事なりと
ふくのぬしとてせられたる破路のまきばいぞ
はなきことなれど物れ性といふ事ととも

一うを踏ひくはき事なかりかされたか
うれ事うたう一やうまきふうをのまけき又
たまのいもごたさるゝおり一は一けるときはの政
あぐ一やとせ流ひく喜りよまのい一後奉りける
よたまかひのいものい一後まき一りきと依
り流し月の吹まらしく東大寺大佛殿の法衣
よたう一きまけると春日の法衣人なるもの源成
の氏もよとこれまきとよ一ぬ事よやとよま
きとよのあやよひとや一かどるぐ一はきを急つが
せのうに吉相よとそれらあやけきとぞおあえゆる都
着とらういもきいんぬよと一人申せとあらう

ちてん路人まのゆる事とらうよ路事とらふは
とよもの中よいこそたうあられよせめでとら
け一あまうきままのいん路人ありぬと事
子あまは流あまのいんあまが人くあま
一あまあまのいん又とらうとまらうとら
すこれらうちらうらやあまらうまのいん
まなりとらあまのいんあまのいん
り人あまうちらうら此事ハ女房とらう
えぬあまのいんあまのいんあまのいん
あまのいんあまのいんあまのいん
あまのいんあまのいんあまのいん

しびり此おとたる心くさりやたふいとせ
がましけは正徳しをこする人もたをすめりよ
をたごのめうしうけありきふお初てあを
ううと後路よとやこれきやそらばうりもく
ちあけそをくゆきだすくのとれれく又く
かき事ハあしあくゆきごめしあしはきこ
めしとそま初くは於一とて路をせよとひのりそ
まうりゆんるのな又どりよさんどそとの法い
くの箱しうけ路りま初しうぬら路ある屋
第ごしうらうらうらうらうらうらうらうら
りん路いぬしときくくくくくくくくくくく
を路よはあをたのん

きてまうら六松きあうら屋ハはけやよとそつとえ
を路よこれあうしめけなもあふいまハたあ
ありき神日記るで法はらんするあむりしとま路
山くつらうらさむりれえんはうでゆらんき
見えく後命し事とふは思ひまそりくはり
るもふくそあれはふ人よあむとまあり
お初しやの路事とゆんともあうしうた
しませば事ハたひのあくもんよともを路を重
あうしと初しうしをゆれといたをまはきとたか
くありくさんねらふはのぬすけを路くま也
ゆえはあもやまもあうらひのゆんともあ

おまひめし——さゆまをのこ死す人としせぬといひ
人くくまそ人物がうりすうたされぬとおおすもあつ
まもがうたれぬええ一言もむゆふ支事くりく
ゆふはけいゆあふ之宣今りの産乃戒わよま後せぬ
佛にぞい誠院とく——やうん中まもこくうより十戒
乃中よ妄語ぞむたもちてゆる身なれぬといのち
もたもちくくもこふこのこてぬむのこそきとほ
しを路ふこののよらに——とまゆりてあやまちや
あふびむわくこよれもあそ人乃命ハ八百歳なりそ
まがゆりく誠——とていさく百歳よなるこけり
佛にぞあつ——やうんたよりきれど生死乃定なき——

と今よりそめし路として物廿年けりて八十と
中——入滅せし後路ひまきこもて八十とま
いむぐれどこま年より今年まうぐ一千九百七十二
年よそなるも信もぬも釋迦如来滅——路して期
て八十も寛むぐれど之佛の命を不定なりとんせ
きを路ひまきこもてやこれらも九十百の命
のつこまよえゆるめれどけけきるもの命いまれ
なる事 甚難く希有とるもよけこれとや人
まるりいどむ——はうをりり乃人信り神武天皇を
も——あなるもそ廿餘代まそのあひぶふ十八代より
が初ら百歳百餘歳も六十持ち終るも神武天皇あり

ましなまどと末代はたきけ玉命りとおせゆるさまい
ゆどしたるまゆりんるあまのこを戒とうきたひあま
供けることたひ路中れふの生もやめくぞまうり人
死んと思ひ路する也くこれ津堂よ新向し路かん
神明冥道をちえまことめせとこちひこあま
がるよあまきこちつひつゝえんりーなるまきき出と
りりふゆめよりとねあけさるる備あまあさり
ゆるまうまもしくあけさるる年うそ屋さ路たま
きまうなるふりごとくをあらとゆるめがうあれきま
としんごさあひいしくとそ十二よそあわきた都ふ
まのりまこののいかにたて成えりりうしく陽成院たて

さ海路ふ年ふいゆあけりきらふくそはれきてなり思
ふよあれまのまのうは今十餘年ひさしくはそあめ
まご百七十一はたさくーあまの八十よをまきり
ゆいりーなごひひあまのうそくひつこつとくらひ
とらぬは相入るまおまめれやせとさあま
今りそんくゆるまあまのまきりまあまのま
二人はまてまうりきるまうは二人長命とま
くどいあまのまをまでりーとはたのひひけるま
はとまのまくとんたねひたまうー和とよ昭宣
さの君達三人あひあまのまをまえりまきだなる
りまうらねそりー時平れたまうまはあまのま

たはゆゆるりたる世を捨てて
まをたふせりてゆく

世にまをたふせりてゆく

いとまをてくめてさせ給ひて
それくの業をせ給ひ
き命さぶらひ給ひたる
あふりわくれぬ
かありくるくまはるあろが
あせやくとひの境また
まもゆきまをてくまを
せ給ひてゆく
なりとまをてくまを
せ給ひてゆく
たけつちまをてくまを
せ給ひてゆく
あけくたまふちひ
とあらまをてくまを
せ給ひてゆく
まはれとりあひと
いふ題に人のまを
てくまをてくまを
せ給ひてゆく
はままつりて
まをてくまを
せ給ひてゆく

めまはとおもせ給ひ
まをてくまを
せ給ひてゆく

あまみとりあひ
まをてくまを
せ給ひてゆく

あまみとりあひ
まをてくまを
せ給ひてゆく

たどめくまを
せ給ひてゆく
まのうも路あり
まをてくまを
せ給ひてゆく
あはれ事など
あまみとり
あひまをてくまを
せ給ひてゆく
たてまをてくまを
せ給ひてゆく
あまみとり
あひまをてくまを
せ給ひてゆく
あまみとり
あひまをてくまを
せ給ひてゆく

あまみとり
あひまをてくまを
せ給ひてゆく

いふはなれあらしき記らん何とぞいひ

おもひはらうおもひし記そたまき

ふれとてふまやけふ事よねのほろりよあふ

いふはなれあらしき記らん何とぞいひ

のこしむのしと月とゆきなりとこしむのこ

ふれとてふまやけふ事よねのほろりよあふ

いふは

いふはなれあらしき記らん何とぞいひ

おもひはらうおもひし記そたまき

ふれとてふまやけふ事よねのほろりよあふ

いふはなれあらしき記らん何とぞいひ

四

いふはなれあらしき記らん何とぞいひ

おもひはらうおもひし記そたまき

ふれとてふまやけふ事よねのほろりよあふ

いふはなれあらしき記らん何とぞいひ

おもひはらうおもひし記そたまき

ふれとてふまやけふ事よねのほろりよあふ

いふはなれあらしき記らん何とぞいひ

おもひはらうおもひし記そたまき

ふれとてふまやけふ事よねのほろりよあふ

いふはなれあらしき記らん何とぞいひ

おもひはらうおもひし記そたまき

本よとあぢえんつら臨和歌の堂をさ極臨らんるを
小んられたき事よ侍れどかくらんといふならぬ
とよといふるにぞふいふとま礼よ侍らんるまよに侍
まよ何さよけさるるまよあしゆき事そり
小野宮殿園院大将殿あどそりむきだてまよと
たよてさせ臨ひらさるねが別祿賜あよたとひ那
まよたよさるりりいひまよとえたりぬ
まよめをんくけまよ中つるまよあつまよあ
ぬまよまなぬとあまよあまよまよそり
いよまよひまよあまよあまよあまよあまよ
一だまよあまよあまよあまよあまよあまよ

たよてぬきかまよまよ三條院の太皇會の侍
襖のいづらよ太皇太后宮のりたよまよせ臨
あまよ一そあまよ大文の二車のりまよあまよ
まよあまよあまよあまよあまよあまよあまよ
二条のたぬちの侍まよあまよあまよあまよあまよ
まよあまよあまよあまよあまよあまよあまよ
まよあまよあまよあまよあまよあまよあまよ
まよあまよあまよあまよあまよあまよあまよ
まよあまよあまよあまよあまよあまよあまよ
まよあまよあまよあまよあまよあまよあまよ

いふむねなきふしうのしとてつらうに流しにまうしけきごと
かぐせちよよしめ終へを今ハのきけめふれそのものよ
くつられ奉る人きううそんきうゆるうに後一條院
長元十年四月十七日(時)終させ終へ保天十廿一年その
やどいつうりるあし終ふおろくゆりき中宮を
ぐそたがしめつなげきておる年れ九月六日(時)せ
さ終ひし上東門院おろめつなげきしかど
まれよそをくれなをせ終ひて一ふれまを終ひし終院と
うそつうらう奉ら終ひし終院のおりんさうそつ
のまそつうに終つらのあひ終つとや
かけまうに終つ終るのこれに終

つなげのらんものやいそ

五月をうりあつまはまこつめて女院
ひとしと終つしけはるんはとてあは
これまをくれなをせ終ひし終院とや

これおらん思ひは源中納言あきまの君すき
終ひて後女院し終へ

男をすそつとあは終つ身あれとま
るはあは終つ終つあは終つなるさうら
御あ

世はあは終つ終つあは終つ
世はあは終つ終つあは終つ

はまの女はうらたてりまにふいふ無障
井は幾路もくいはましくもやちち意く
らやすは海しおほくも深り青みりれう
も

ゆるももはけーあやめれ福をたて
らふふらひらほはは海舟

御

あはぬもやふけんあひりー

あはぬもやふけんあひりー
あはぬもやふけんあひりー

そはものしるるなりといふものよはたとこと
うこそまてまつり路ひくうふおきまうけの
ね月しめまするよの甲舟りよは女房たかく
ておお小舟小舟はるといひくひんはあふとる
るりりーいんーいんー



